

雑草は悪者か？

武田 健 （技術士補 建設部門）

ある日、下の子を連れてコンビニに買い物に行く途中、道端でおばさん二人がこんな話をしていました。

「このみぞのわき、雑草だらけでできたなかったけど、コンクリされてきれいになってよかったことお」

それを聞いて、子供が私に言いました。

「雑草って緑だよ、緑は大事にしなさいって学校で習ったよー、でも学校のグラウンドも草取りするよね、なんでだろ」

はて？

そういえば、古い話で私が小さかったころ、うちのばあちゃんが、小屋の脇に少しあった隙間の雑草だらけの様子を見て、こんな風に言っていたのを思い出しました。

「父ちゃんにゆうで、はあよこんくりしてもらわねど、みつばわろでしょうがね」

※お父さんに言って、早くコンクリートで覆ってもらわないと、みつともなくてしょうがない。

それを聞いて母も「んだの」と言います。

それを聞いて少しマセガキだった私が言います。「雑草って悪もんなんけー、ちゃんと光合成して酸素作ってるんだで〜」

すると母が答えます。

「こっつけもん、なんのやぐにもただね、こんだんねーでも、酸素こしょわんな、なんぼでもあるわの」

※こんなもの、なんの役にもたたない。こんなもの無くても酸素を作るものはいくらでもある。

はてはて？

近年、地球温暖化などの環境問題や都市景観等が話題になり、そのたびに、緑豊かな街づくりとか、都市に緑を、とか言われていますが、その「緑」とは何を指しているのでしょうか。

未熟者の私の私見ですが、おそらく、ケヤキやイチョウなどの街路樹や公園樹が整然と並び、また林を作り、その足元にはユキヤナギやオオムラサキツツジなどが美しい花を咲かせ、また緑の芝生が広がっている。

こんな管理された緑をイメージしている人が大半だと思います。

そのため、先ほど記したやり取りのように、維持管理費も無く、汚い雑草が生えるくらいなら、コンクリートで覆った、いわゆる無機質な空間のほうがきれいだという考え

に至ってしまうような気がします。

その張本人である造園屋の私が言うのもなんですが（会社にばれるとかなりまずいですが）それで良いのでしょうか、美しく管理された緑を求めるのならば、緑豊かな都市やまちは、維持管理費が膨大になり、実現はかなり難しいものになってしまうような気がします。

もう少し雑草に対して優しい気持ちを持っても良いのではないのでしょうか。

地球温暖化防止に対する二酸化炭素吸収を求めるならば、雑草類も（雑草という植物はありませんが）立派な緑といえるのではないのでしょうか。

景観としてどうか？と言えば、それは見方を変えるしかないと思いますが。

雑草たちも良く眺めれば結構きれいなもんですよ。

悪名高いセイタカアワダチソウなども、花の咲く少し前の薄緑色の姿は美しいと思いますし、ヒメオドリコソウの小さい花やマンテマの二色の花も美しいと思います、田植え時分のカラスノエンドウに覆われた土手なんか非常に美しいものがあります。

ツクシはかわいいけれどもスギナは困ると言うのも、なんかわがままな気がします。

皆さんも時には道端の雑草に目を留めてみませんか、子供にカントウタンポポとセイヨウタンポポの見分け方などを講釈すれば、尊敬を勝ち取られること間違いなしですよ。

※見分け方は各自で調べましょう。